2021年度決算説明会

～2021年度決算および当行の戦略～

（東証プライム：8544）

2022年6月9日

確かな“きずな”を、未来へ。

株式会社 京葉銀行

目次

2021年度決算説明

- 2022年3月期決算概要 3
- 資金利益 4
- 貸出金・預金 5
- 有価証券運用 6
- 役務取引等利益 7
- 与信費用 8
- 経費・自己資本 9
- 2023年3月期計画 10

資本政策・ガバナンス

- 資本政策 12
- ガバナンス 13

中期経営計画の概要と進捗

- 中期経営計画の概要 15
- 計画計数の進捗状況 17
- 法人ソリューション 19
- 個人ライフプランニングサポート 21
- デジタル戦略 23
- 店舗戦略・人員の戦略的再配置 24
- 人財戦略 25
- りそなＨＤとの戦略的業務提携 26

サステナビリティ

- サステナビリティへの取り組み 28
- 地域経済・社会 31
- ダイバーシティ＆インクルージョン 32
- 環境保全 33

2021年度決算説明

2022年3月期決算概要

（億円）

【単 体】		21/3	対20/3	22/3	対21/3
1	業務粗利益	523	△16	534	11
2	資金利益	470	△0	482	12
3	役務取引等利益	67	9	83	16
4	その他業務利益	△14	△25	△32	△17
5	うち国債等債券損益	△15	△22	△33	△17
6	経費	355	△6	351	△3
7	実質業務純益	167	△10	183	15
8	コア業務純益	183	12	216	33
9	除く投資信託解約損益	179	15	213	34
10	一般貸倒引当金繰入額	9	△21	5	△3
11	業務純益	158	11	177	18
12	臨時損益	△42	25	△19	23
13	うち不良債権処理額	39	△69	24	△14
14	うち株式等関係損益	15	△41	17	1
15	経常利益	115	37	157	42
16	特別損益	△11	△10	△0	10
17	当期純利益	73	18	110	37
18	実質与信関連費用	49	△90	30	△18
19	顧客向け業務利益（※）	63	10	86	23

【連 結】		21/3	対20/3	22/3	対21/3
20	連結経常利益	119	38	162	42
21	親会社株主に帰属する当期純利益	73	18	111	38

※「顧客向け業務利益」＝貸出金平残×（預貸金利回り差）＋役務取引等利益－営業経費

業務粗利益・コア業務純益

■業務粗利益は、11億円増加し534億円。
- ➢資金利益は、預け金利息及び有価証券利息配当金の増加等により12億円増加し482億円。
- ➢役務取引等利益は、預かり資産関連手数料やｿﾘｭｰｼｮﾝ関連手数料の増加により16億円増加し83億円。
- ➢その他業務利益は、国債等債券損益の減少等により17億円減少し△32億円。

■経費は、物件費の削減等により3億円減少し351億円。
■実質業務純益は、15億円増加し183億円。
■コア業務純益は、33億円増加し216億円。
■顧客向け業務利益は、23億円増加し、86億円。

経常利益・当期純利益

■実質与信関連費用は、個別貸倒引当金繰入額の減少等により18億円減少し30億円。
■経常利益は、42億円増加し157億円。
■当期純利益は、37億円増加し110億円。
＜連結＞
■親会社株主に帰属する当期純利益は、38億円増加し、111億円。

資金利益

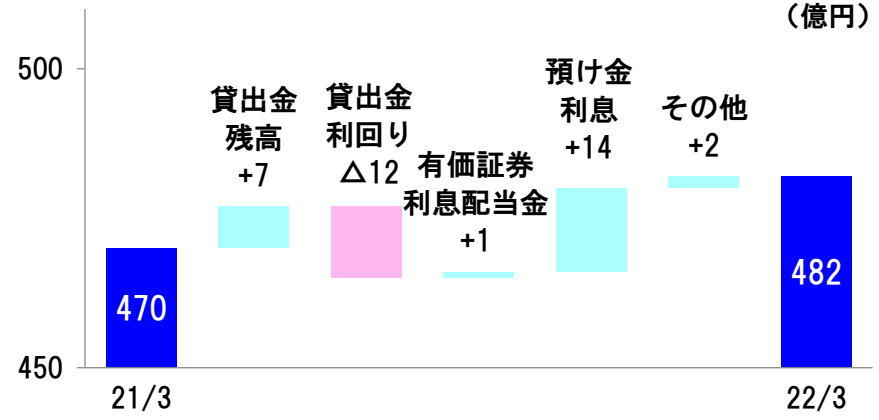
■預け金利息と有価証券利息配当金の増加等により、資金利益は増加

資金利益

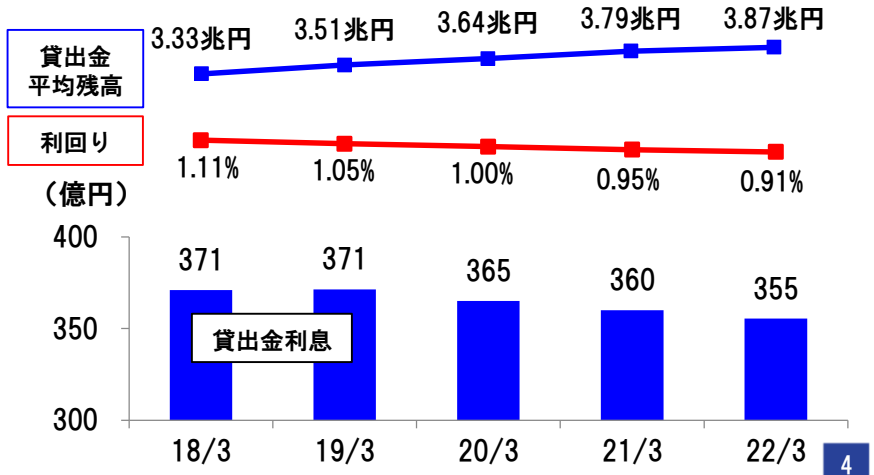
（億円）

		21/3	対20/3	22/3	対21/3
1	資金運用収益	477	△1	489	11
2	貸出金利息	360	△4	355	△5
3	有価証券利息配当金	111	3	113	1
4	（債券）	(69)	(△4)	(59)	(△9)
5	（株式）	(20)	(△0)	(23)	(3)
6	（投信・外国証券）	(21)	(8)	(29)	(7)
7	預け金利息	5	0	20	14
8	資金調達費用	7	△0	6	△1
9	預金等利息	3	△1	2	△1
10	債券貸借取引支払利息	4	0	4	0
11	資金利益	470	△0	482	12

資金利益の増減要因



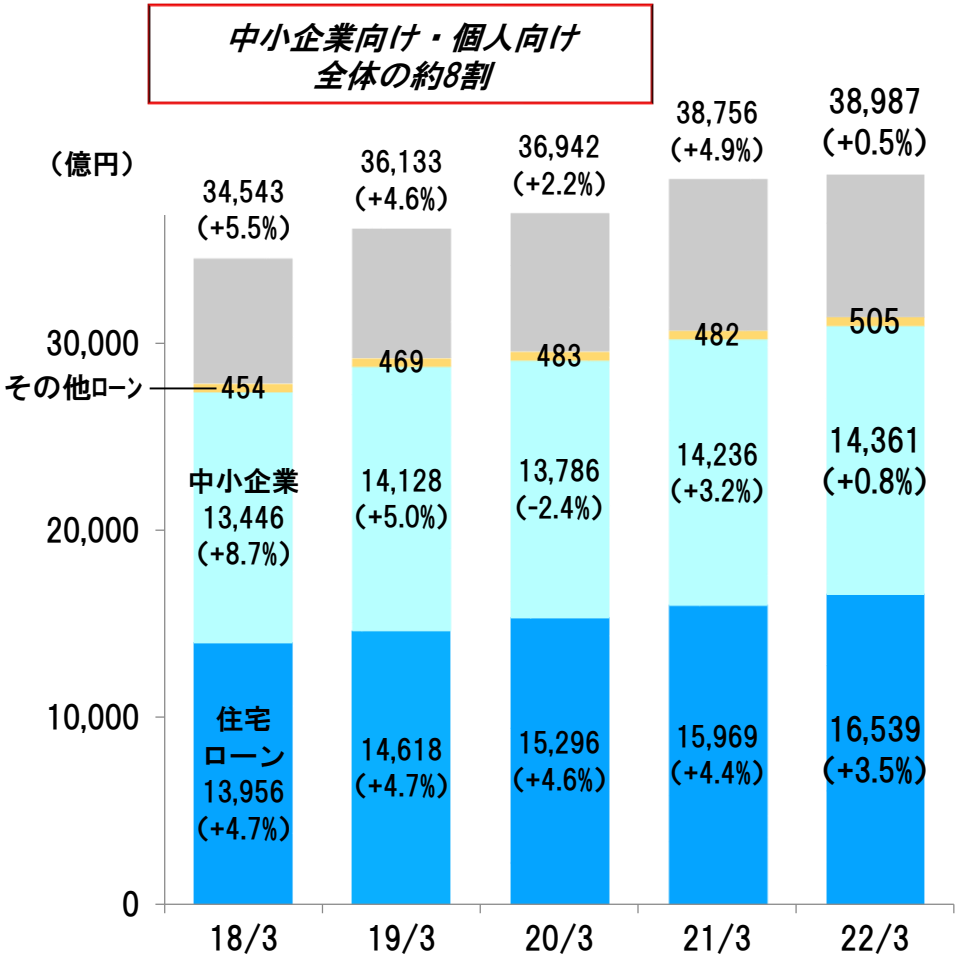
貸出金利息



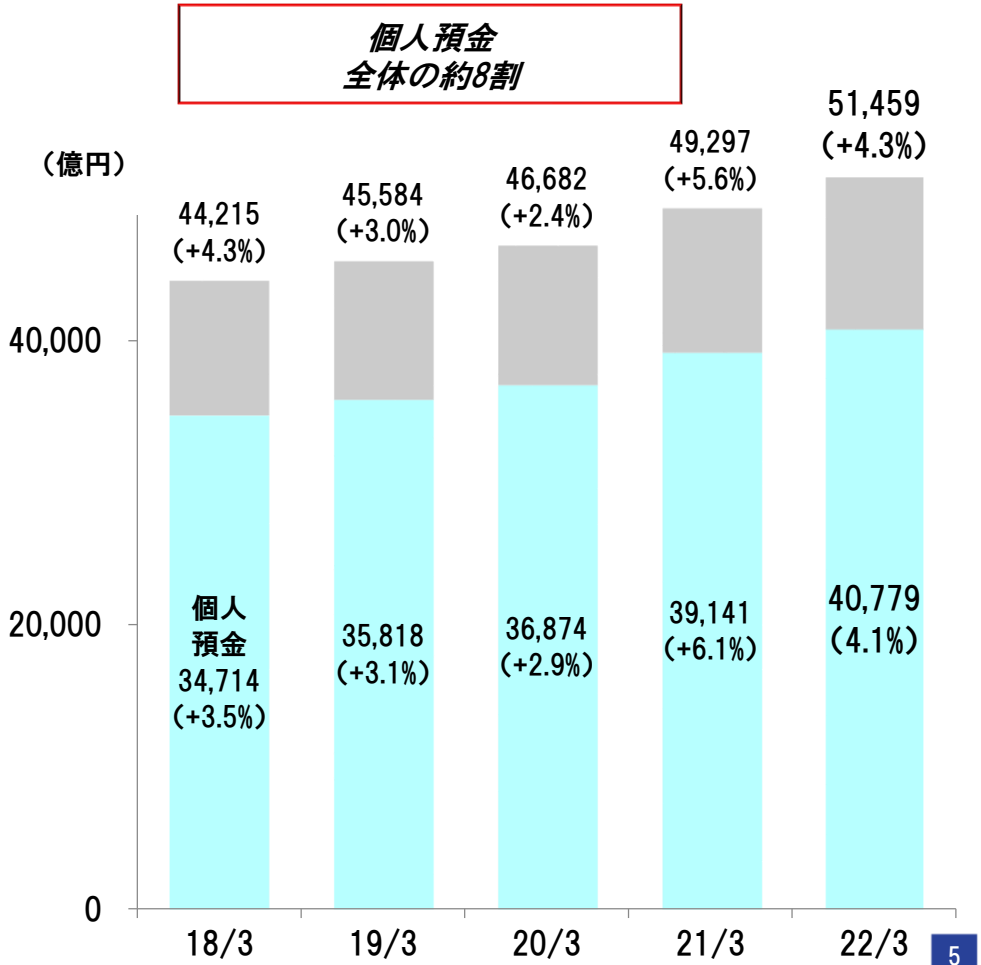
貸出金・預金

■貸出金・預金ともにバランスよく増加

貸出残高



預金残高



※（　）内は対前期増加率

有価証券運用

■機動的売買と運用多様化に取り組み

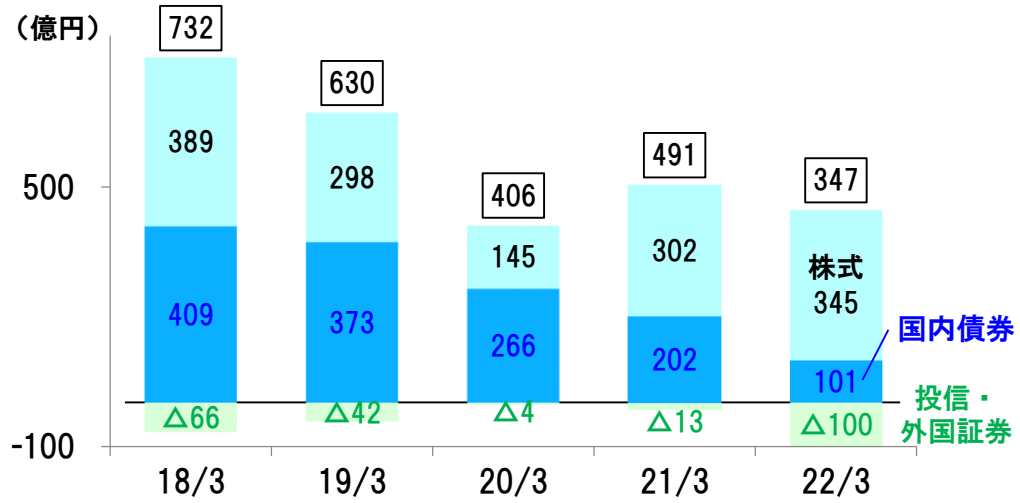
有価証券残高

（億円）

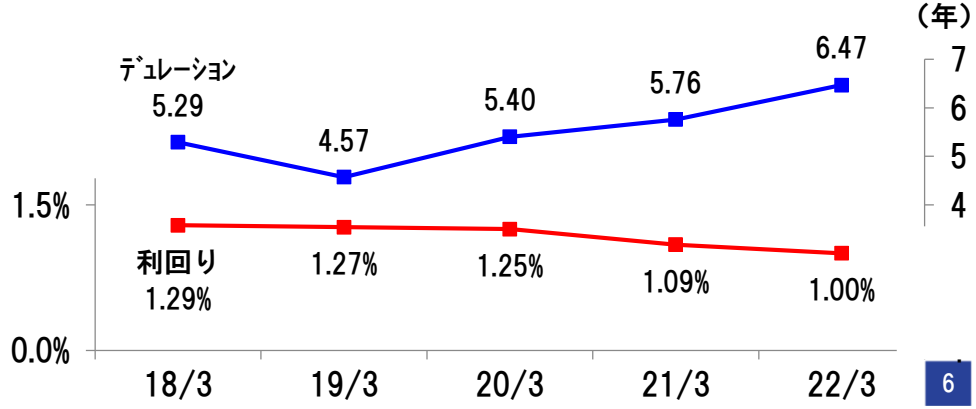
		21/3	22/3	対21/3
1	有価証券残高	10,069	11,260	+1,190
2	国債	5,194	5,458	+264
3	地方債・社債等	2,073	2,482	+409
4	外国証券	516	620	+104
5	株式	560	563	+3
6	投資信託	1,715	2,123	+407

※償却原価ベース

有価証券評価損益



有価証券利回りと円貨デュレーション



役務取引等利益

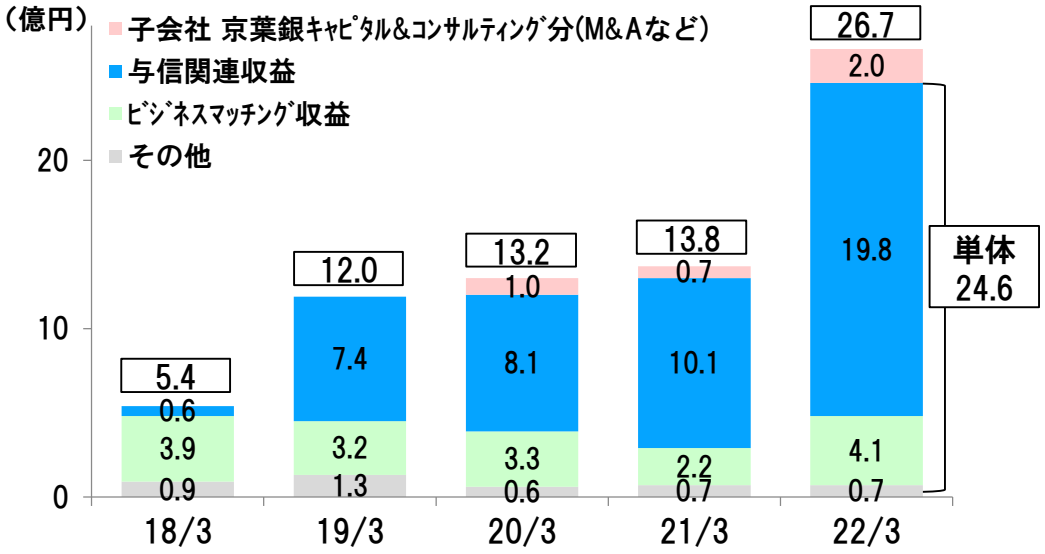
■ソリューション関連手数料・預かり資産関連手数料ともに大きく増加

役務取引等利益（単体）

（億円）

		21/3	22/3	対21/3
1	役務取引等収益	110	128	17
2	ソリューション関連手数料	13	24	11
3	預かり資産関連手数料	28	36	8
4	受入為替手数料	23	20	△2
5	その他受入手数料	46	46	0
6	役務取引等費用	43	44	1
7	支払為替手数料	4	3	△1
8	団信保険料	25	28	2
9	その他支払手数料	12	12	△0
10	役務取引等利益	67	83	16

ソリューション関連手数料の内訳



預かり資産関連手数料の内訳

（億円）

		21/3	22/3	対21/3
1	預かり資産関連手数料	28.1	36.3	8.2
2	保険	8.5	10.4	1.9
3	投資信託	17.4	22.6	5.2
4	金融商品仲介（※）	1.8	3.0	1.2

※京葉銀行SBIﾏﾈｰﾌﾟﾗｻﾞにおける金融商品販売を通じた収益など

与信費用

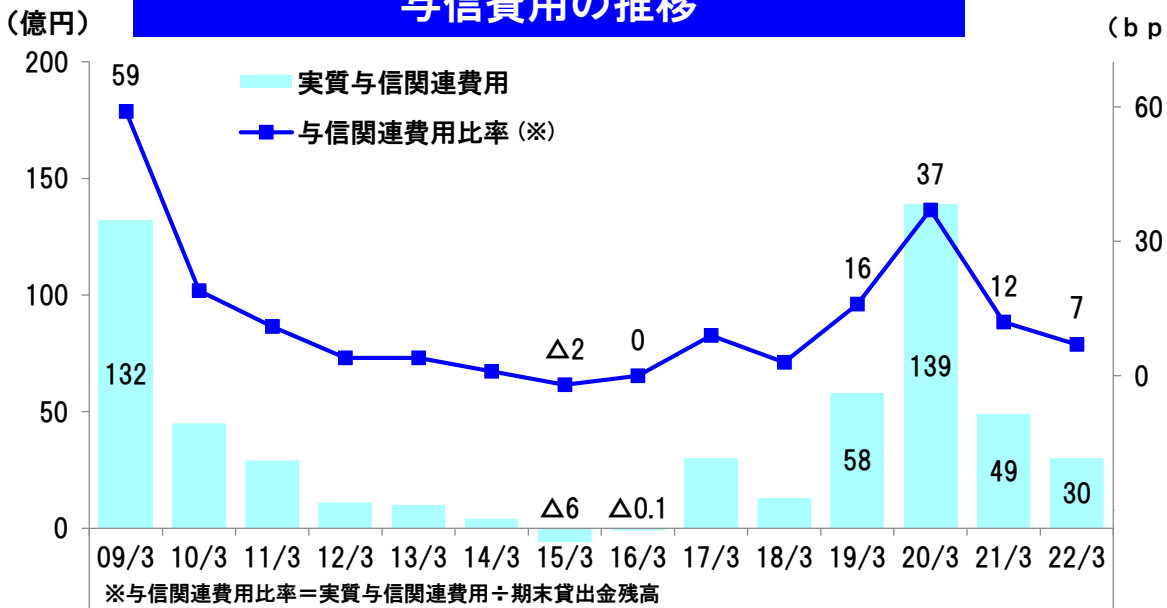
■従前からの予防的対応などにより、与信費用は減少

与信費用

（億円）

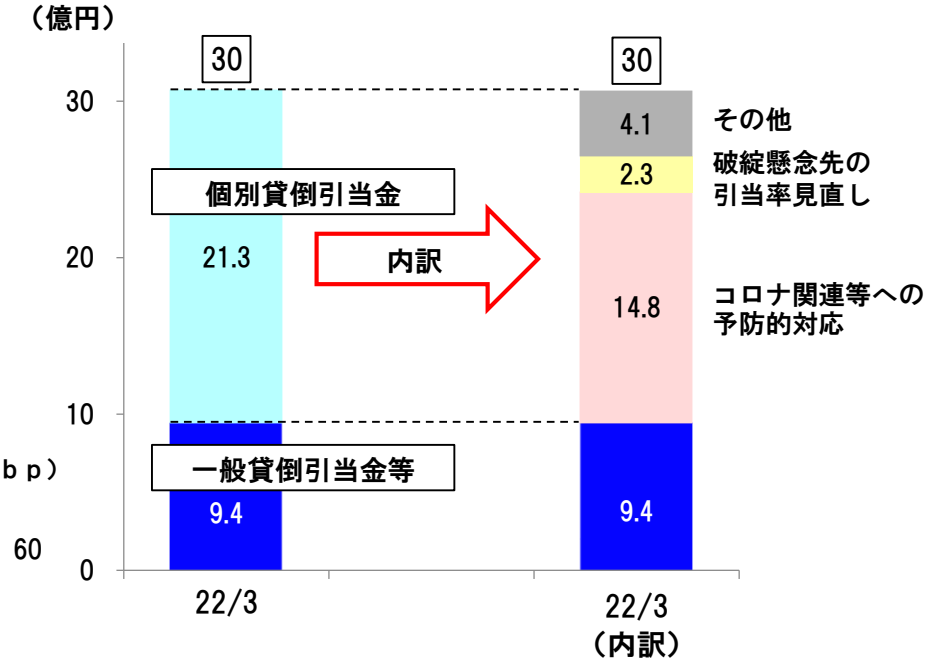
		21/3	22/3	対21/3
1	実質与信関連費用	49	30	△18
2	一般貸倒引当金	9	5	△3
3	個別貸倒引当金	33	21	△11
4	その他	6	3	△3
5	開示債権比率	1.25%	1.31%	0.06%

与信費用の推移



※与信関連費用比率＝実質与信関連費用÷期末貸出金残高

与信費用の内訳



引当手法の見直し

2021年3月期	➢ 大口の破綻懸念先にＣＦ控除法を導入
2022年3月期	➢ 正常先、要注意先にﾌｫﾜｰﾄﾞﾙｯｷﾝｸﾞ引当を導入 ➢ 大口の要管理先にＣＦ見積法を導入

経費・自己資本

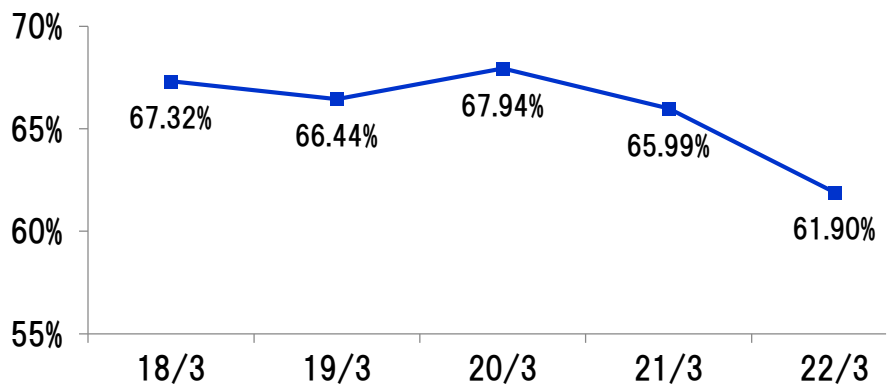
■経費減少、自己資本比率は高水準で推移

経費

（億円）

		21/3	22/3	対21/3
1	経費	355	351	△3
2	人件費	176	175	△0
3	物件費	151	148	△3
4	税金	27	27	△0
5	OHR	65.99%	61.90%	△4.09%

OHR（経費／コア業務粗利益）



自己資本

＜国内基準・単体＞

（億円）

		21/3	22/3	対21/3
1	コア資本に係る基礎項目	2,669	2,734	64
2	コア資本に係る調整項目（△）	62	93	30
3	自己資本	2,606	2,640	34
4	リスク・アセット等	23,152	23,678	525
5	自己資本比率	11.25%	11.15%	△0.10%
6	ROE（当期純利益ベース）	2.57%	3.80%	1.23%
7	ROA（当期純利益ベース）	0.12%	0.16%	0.03%

＜国内基準・連結＞

8	自己資本比率（連結）	11.29%	11.17%	△0.12%

2023年3月期計画

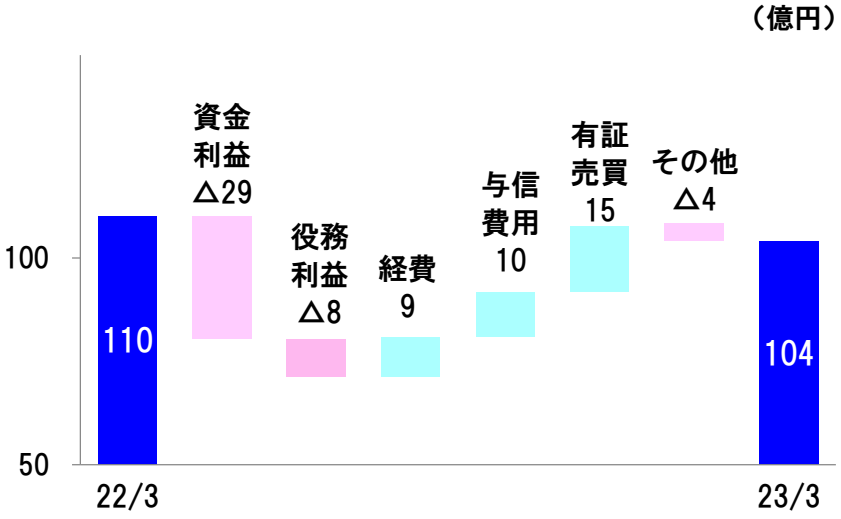
（億円）

【単 体】		22/3	対21/3	23/3計画	対22/3
1	業務粗利益	534	11	528	△6
2	資金利益	482	12	453	△29
3	役務取引等利益	83	16	75	△8
4	その他業務利益	△32	△17	0	32
5	うち国債等債券損益	△33	△17	0	33
6	経費	351	△3	342	△9
7	実質業務純益	183	15	186	3
8	コア業務純益	216	33	186	△30
9	除く投資信託解約損益	213	34	186	△27
10	一般貸倒引当金繰入額	5	△3	△2	△7
11	業務純益	177	18	188	11
12	臨時損益	△19	23	△38	△19
13	うち不良債権処理額	24	△14	22	△2
14	うち株式等関係損益	17	1	0	△17
15	経常利益	157	42	150	△7
16	特別損益	△0	10	△1	△1
17	当期純利益	110	37	104	△6
18	実質与信関連費用	30	△18	20	△10
19	顧客向け業務利益（※）	86	23	82	△4

【連 結】		21/3	対20/3	22/3	対21/3
20	連結経常利益	162	42	154	△8
21	親会社株主に帰属する当期純利益	111	38	105	△6

※「顧客向け業務利益」＝貸出金平残×（預貸金利回り差）＋役務取引等利益一営業経費

当期純利益の増減要因



2023年3月期計画について

■銀行単体では、経常利益は、7億円減少の150億円、当期純利益は、6億円減少の104億円を計画。

■連結では、経常利益は、8億円減少の154億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、6億円減少の105億円を計画。

資本政策・ガバナンス

資本政策

■ステークホルダーへの適切な利益配分を実施しつつ、健全性を維持

資本政策

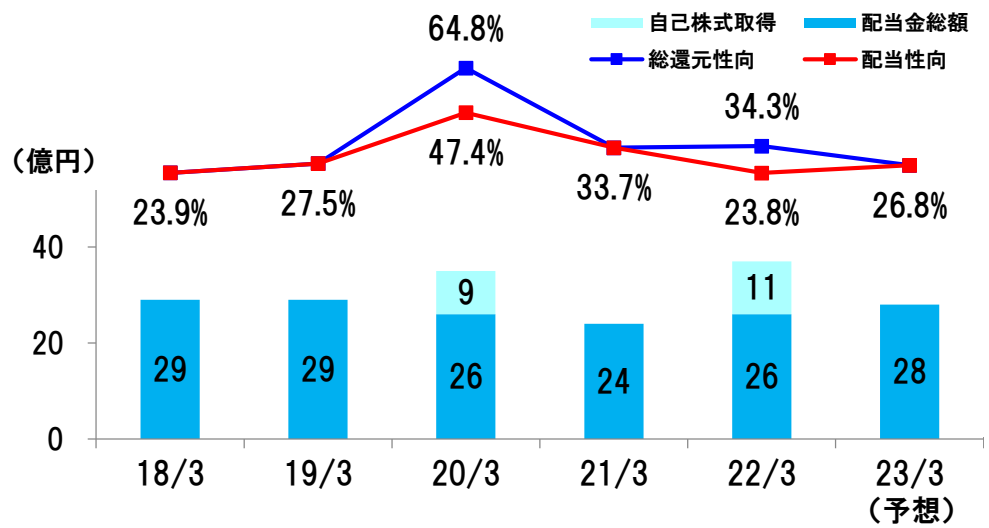
■基本方針
銀行業の公共性に鑑み、健全経営と内部留保の充実に努めるとともに、ステークホルダーへの適切な利益配分を実施

中期的な方向性	
株主還元	安定配当を基本としつつ 配当性向30%以上を目安とする
健全性	自己資本比率は11%程度を目安とし、 十分な自己資本を確保する

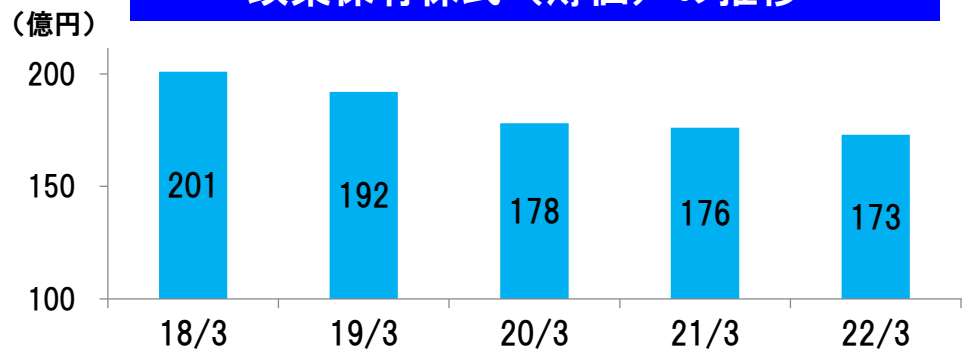
	21/3	22/3	23/3 （予想）
１株当たり配当金	19.00円	20.50円	22.00円(※)
配当性向（単体）	33.7%	23.8%	26.8%

※2023年3月期は、創立80周年記念配当を含んでおります。
株主の皆さまの日頃のご支援にお応えするため、2023年3月期の中間配当及び期末配当について、それぞれ１株当たり50銭、年間1円の記念配当を実施することといたしました。

配当金額と配当性向



政策保有株式（簿価）の推移

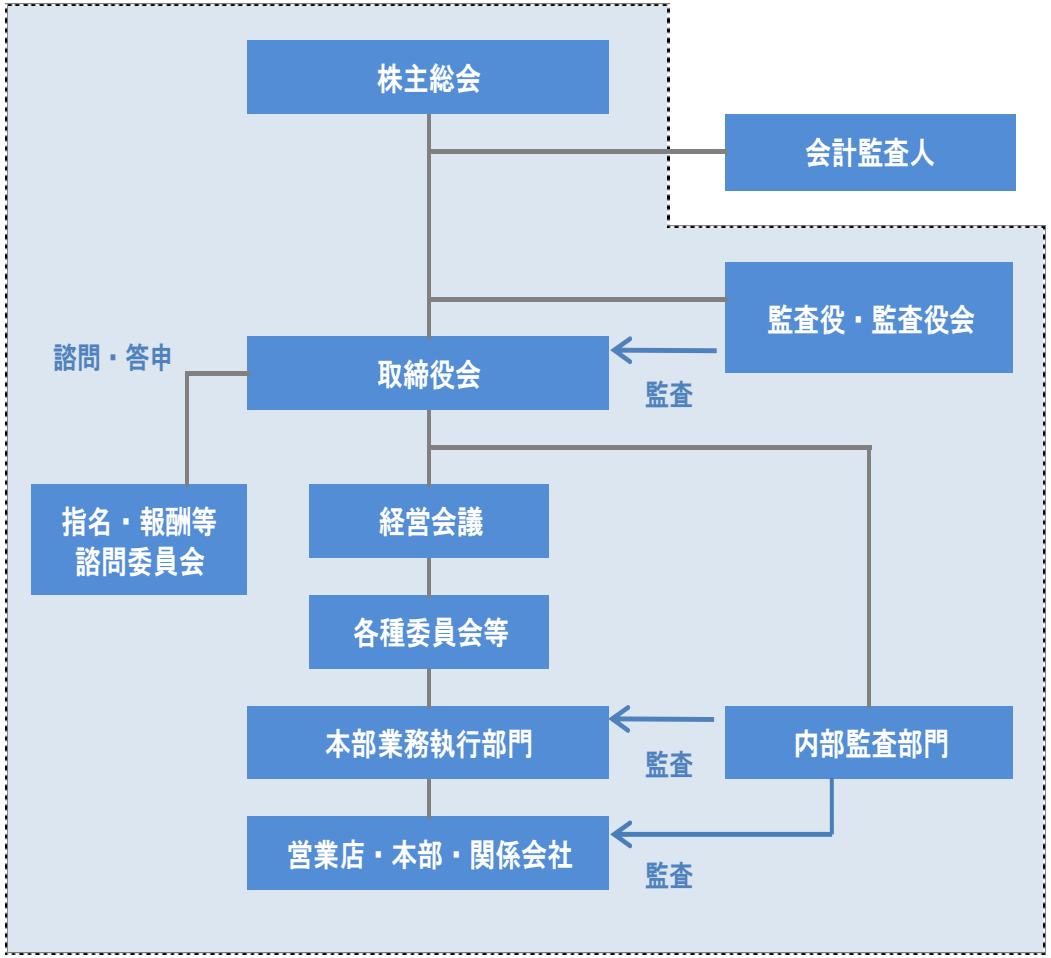


※上場企業に限る

ガバナンス

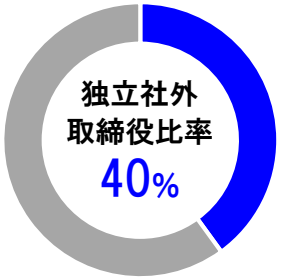
■多様な視点を取り入れた公正で透明性の高いガバナンス体制

ガバナンス体制



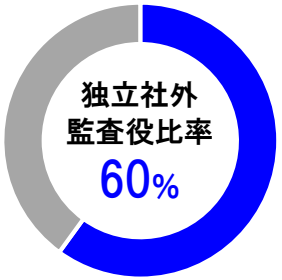
取締役会

独立社外役員4名／10名
（うち女性１名）



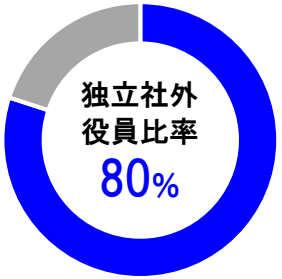
監査役会

独立社外役員3名／5名



指名・報酬等諮問委員会

独立社外役員4名／5名
（うち女性１名）



中期経営計画の概要と進捗

中期経営計画の概要「骨子」

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

社会課題　外部環境

コロナ禍　少子高齢化・後継者不足　低金利環境の長期化　ﾗｲﾌｽﾀｲﾙの変化　急速なﾃﾞｼﾞﾀﾙ化　規制緩和　ＳＤＧｓ

第１９次中期経営計画　α ACTION PLAN 2024
～さらなる進化～

計画期間　２０２１年４月～２０２４年３月（３年間）

３つの基本戦略

基本戦略①
課題解決型営業の強化
地域社会やお客さまの課題を発掘し、解決策の提示と実行支援に取り組む営業を強化します。

基本戦略②
生産性の向上と人財の育成
ﾃﾞｼﾞﾀﾙを活用し、当行とお客さま双方の生産性向上を図るとともに、課題解決を行うための人財を育成します。

基本戦略③
経営基盤の強化
ﾘｽｸとｺｽﾄを適切にｺﾝﾄﾛｰﾙすることで、経営基盤を強化し、地域とともに持続的な成長を目指します。

目指す銀行像
お客さまに信頼と利便性、高い満足度を提供する
魅力のある、活力あふれる銀行

中期経営計画の概要「位置づけ」

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

	（前）第18次中期経営計画（2018.4～2021.3）	（新）第19次中期経営計画（2021.4～2024.3）		10年後（あるべき姿）
市場	人口↑ 世帯数↑	人口→ 世帯数↑		人口↓ 世帯数↓
重点テーマ	預貸金を中心とした取引基盤の拡大 取引基盤を活用したｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ収益の増強	「課題解決型営業の強化」 収益の増強・多角化		地域のお客さまとともに安定的持続的に成長
経営資源 チャネル 対面	エリア制の試行 店舗内店舗（8店舗）	エリア制の全店展開 店舗特性の見直し	店舗ﾈｯﾄﾜｰｸの最適化	最適なｵﾑﾆﾁｬﾈﾙ
経営資源 チャネル 非対面	デジタル接点の拡大 非対面完結型ｻｰﾋﾞｽの拡充	デジタル接点の拡大 非対面ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの強化	次世代基幹ｼｽﾃﾑを活用したｻｰﾋﾞｽの向上	
経営資源 人財	本部営業部署の新設 エリア内ＯＪＴの開始	戦略的人員再配置 内部交流・外部交流活性化 専門人財育成		ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ集団
外部連携	証券仲介分野（ＳＢＩ証券）	法個人ソリューション分野・デジタル分野など	異業種含む連携拡大	多種多彩なﾊﾟｰﾄﾅｰ

計画計数の進捗状況

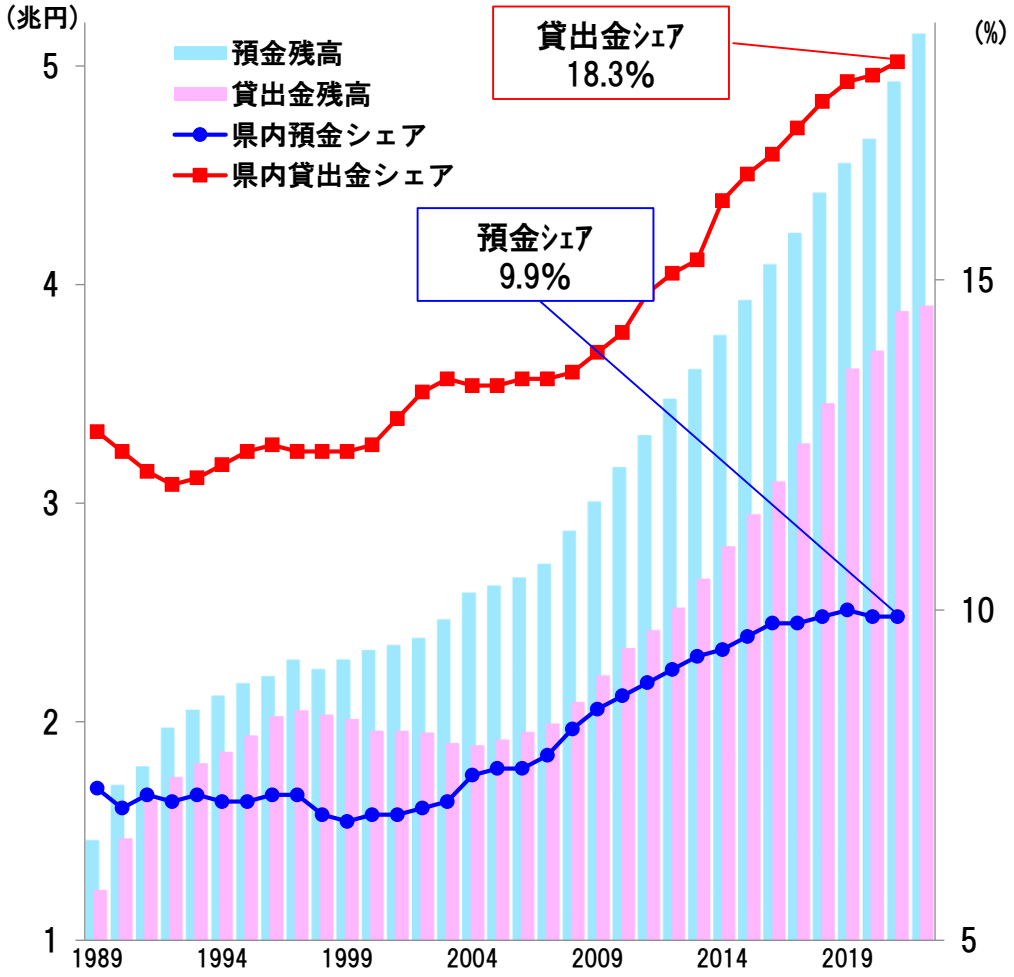
確かな"きずな"を、未来へ。
京葉銀行

			2021/3 実績	2022/3 実績	2024/3 計画
経営指標	親会社株主に帰属する当期純利益		73億円	111億円	80億円
経営指標	自己資本比率（連結）		11.29%	11.17%	11%程度
経営指標	ＯＨＲ（単体）		65.99%	61.90%	60%台
主要計数	法人	中小企業向け貸出残高 ※1	1兆4,236億円	1兆4,361億円	1兆6,000億円
主要計数	法人	法人ｿﾘｭｰｼｮﾝ関連手数料 ※2	13億円	26億円	30億円
主要計数	個人	住宅ローン残高 ※1	1兆5,969億円	1兆6,539億円	1兆7,800億円
主要計数	個人	預かり資産関連手数料	28億円	36億円	35億円

※1 計画値は部分直接償却実施前
※2 京葉銀キャピタル＆コンサルティングを含む

京葉銀行のポジション

預貸金残高と千葉県シェア（普銀転換後）



出所：金融ジャーナル
各年3月期

他行比較

※地銀グループ資金量上位50社の2022年3月期決算より、当行作成

	項目	2022/3実績（年間増減）	順位
営業基盤	預金	5兆1,459億円（＋4.3%）	26位
	貸出金	3兆8,987億円（＋0.5%）	26位
収益性	コア業務純益	216億円（＋18.0%）	25位
効率性	ＯＨＲ 経費/ｺｱ業務粗利益	61.90%（△4.09pt）	17位
安全性	自己資本比率	11.15%（△0.10pt）	19位

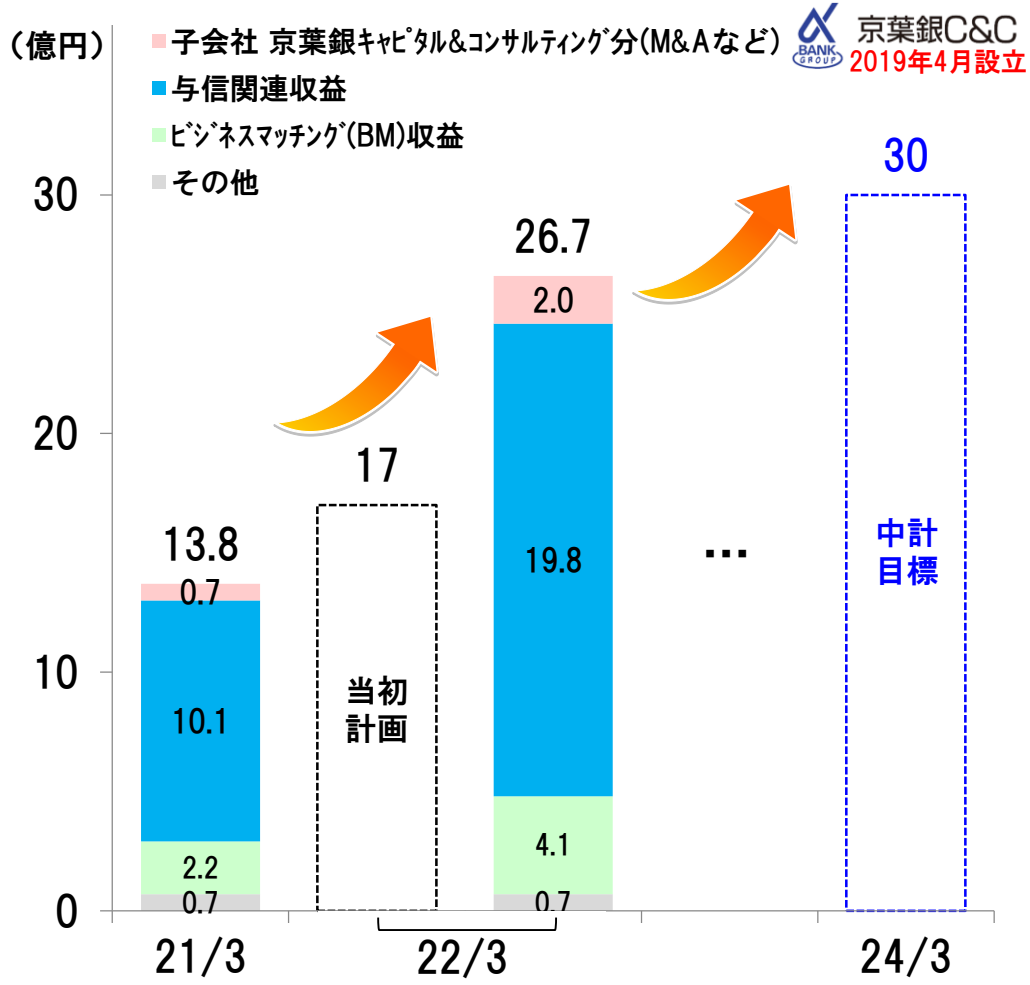
収益性	役務取引等利益	83億円（＋24.2%）	25位

法人ソリューション①

確かな"きずな"を、未来へ。 京葉銀行

課題解決型営業の体制整備とメニュー拡充により、コンサルティング機能を強化

法人ソリューション関連手数料



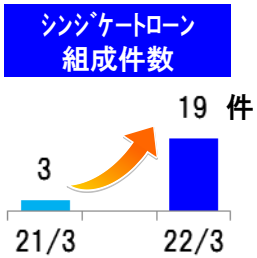
ソリューション提供体制の強化

●本部直接営業の強化

- 法人営業部内にｿﾘｭｰｼｮﾝ営業ﾁｰﾑ新設

●グループ内外の連携強化

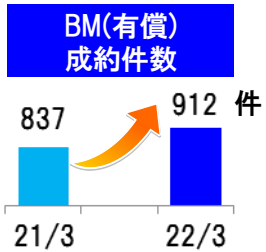
- りそなHD等の外部ﾊﾟｰﾄﾅｰを含む、内外連携を強化し最適なｿﾘｭｰｼｮﾝを提供



ソリューションメニューの拆充

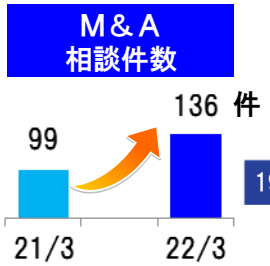
●ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ(BM)ｻﾎﾟｰﾄの高度化

- ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ「αBMS」稼働
  ﾘﾝｶｰｽﾞ提供ｼｽﾃﾑを首都圏で初導入
- 業務提携先の拡充



●事業承継問題への対応強化

- M&Aｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰｻｰﾋﾞｽの取扱開始
- 事業承継ﾌｧﾝﾄﾞの設立



法人ソリューション②

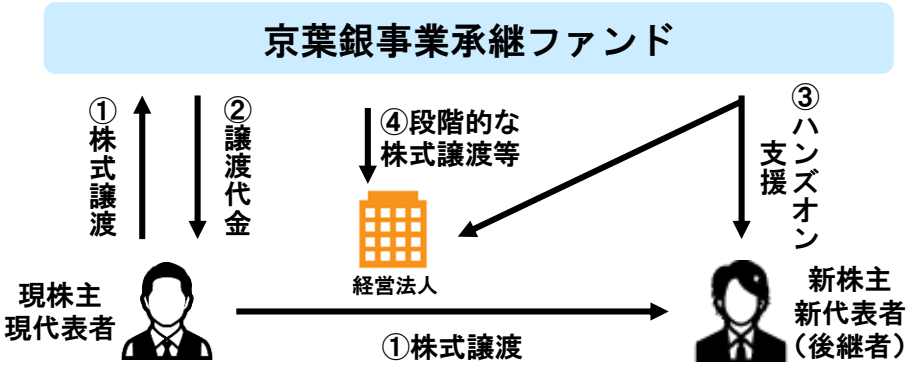
確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

ソリューションメニューを拡充し、お客さまの多様なニーズに対応

ファイナンスメニューの拡充

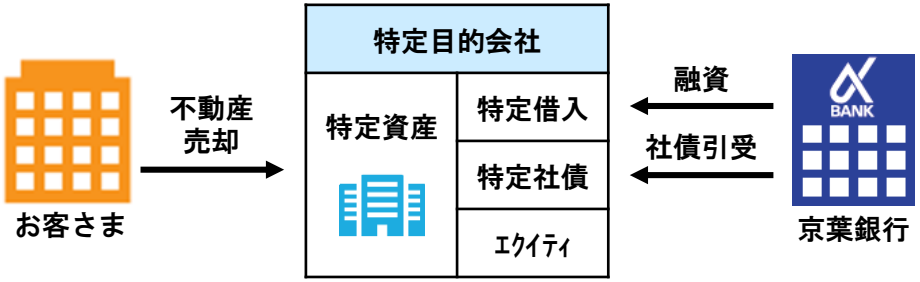
●事業承継ファンド New

- 後継者への負担を抑え、株式と経営の円滑な承継を支援



●不動産ノンリコースローン New

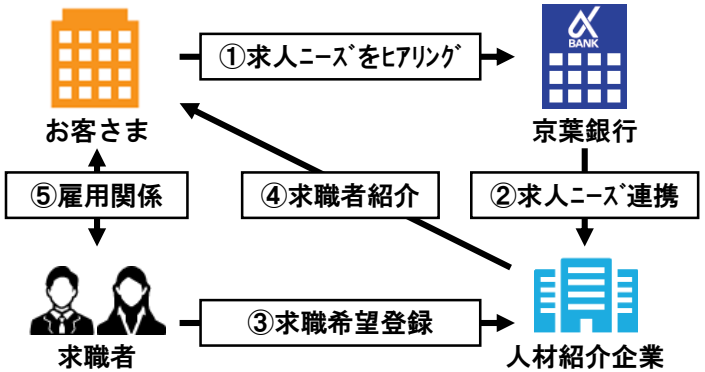
- 不動産のｵﾌﾊﾞﾗﾝｽ化による財務体質の強化をｻﾎﾟｰﾄ
- 2022年3月、第1号案件を組成



より踏み込んだ本業支援メニューの拡充

●人材紹介サービス New

- 先導的人材のﾏｯﾁﾝｸﾞにより地域のお客さまをｻﾎﾟｰﾄ



●ＩＣＴコンサルティング New

- 導入～導入後のﾌｫﾛｰまでお客さまのﾃﾞｼﾞﾀﾙ化を支援

現状分析 課題発掘 → 導入 ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ → 導入ﾃｽﾄ・初期支援 → 活用 ｻﾎﾟｰﾄ

専門ﾁｰﾑが現状の課題を発掘し ICTによる解決策を提案

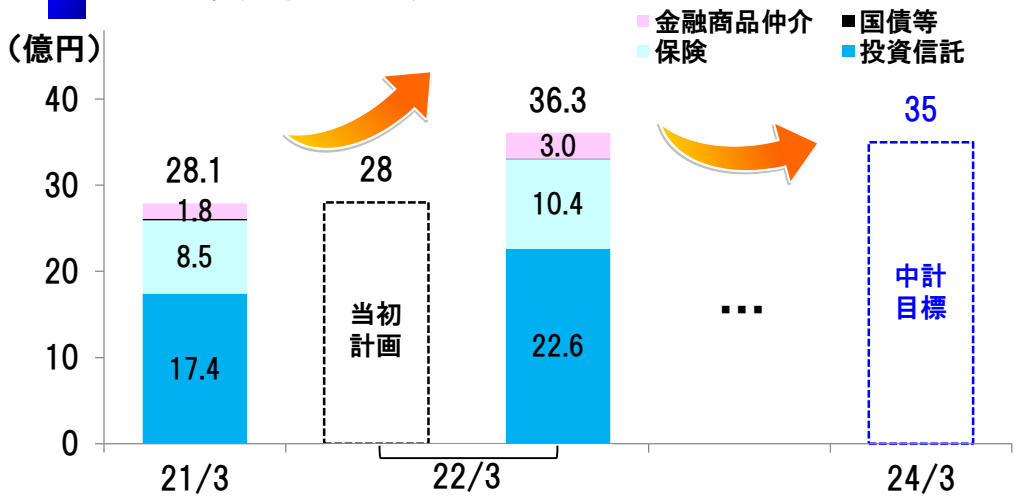
業務効率化に向けたICTの 導入ﾃｽﾄや初期運用を支援

個人ライフプランニングサポート①

確かな"きずな"を、未来へ。 京葉銀行

お客さま１人ひとりに寄り添った最適なプランニングを提供

預かり資産関連手数料

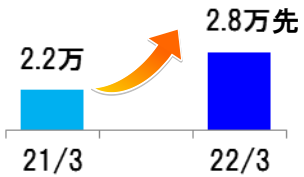


●人生100年時代を見据えた資産形成

- 長期分散投資ニーズにきめ細やかに対応

- ファンドラップ取扱開始 Coming Soon
  投資初心者向けのメニューを強化

投信積立先数

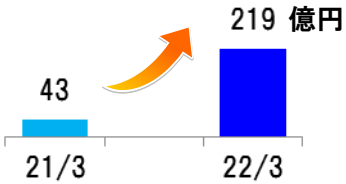


●SBIﾏﾈｰﾌﾟﾗｻﾞとの共同店舗展開

京葉銀行 × SBI マネープラザ

- 2019年9月 千葉（１号店）
- 2021年4月 成田（２号店）

金融商品仲介残高



高齢化社会に対応した金融サービスの提供

	2022/3期
①ライフプランコンサルティング	
➢ 退職を控えたお客さまなどに対し、人生をより豊かにするための生活設計をｻﾎﾟｰﾄ	1,035件
②総資産サポート面談	
➢ 企業ｵｰﾅｰや富裕層のお客さまなどに対し、総合的な相続対策をﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	1,887件
③事業承継・Ｍ＆Ａサポート	
➢ 後継者不足に悩むお客さまなどに対し、円滑な事業承継や事業売却をｻﾎﾟｰﾄ	428件
中計目標 ①～③ 合計3,000件の面談を実施（毎年）	合計 3,350件

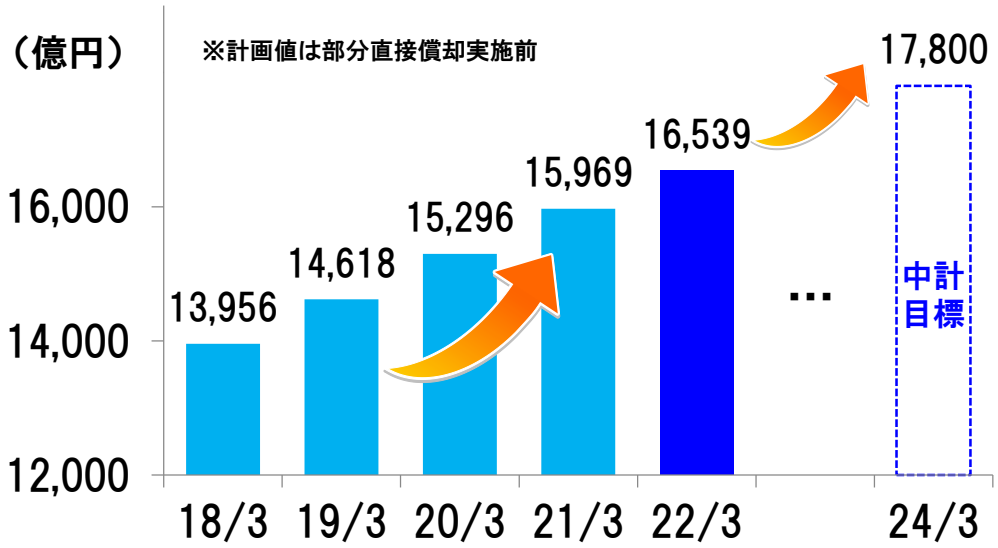
ﾘﾓｰﾄ相談も積極活用

個人ライフプランニングサポート②

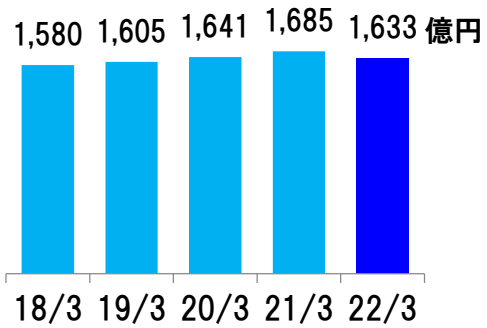
確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行 BANK

住宅ローンを入口に、お客さまとの生涯取引へ繋げる

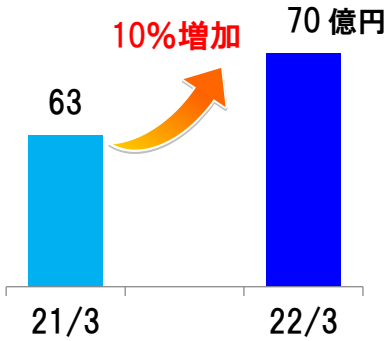
住宅ローン残高



住宅ローン実行額



利用者限定特典ローン残高



住宅ローン拡大に向けた取り組み

他行との差別化

- ● 融資期間最長４０年 New
  - ➢ 若年層の方にゆとりを持った返済方法
- ● ＬＧＢＴパートナーに対応 New
  - ➢ 連帯保証人、連帯債務者、物上保証人の対象者拡大

利用者限定特典ローン

- ● 特典フリーローン・利用者専用借換ローン
  - ➢ 他社ローンのおまとめも可能な低金利ローン
- ● 契約者専用カードローン
  - ➢ 住宅ローンと同時審査で急な資金需要に利用可能

利便性向上

- ● 審査スピード向上 New
  - ➢ 審査の本部集中化推進により迅速回答
- ● デジタル化促進 Coming Soon
  - ➢ 電子契約導入によりお客さま負担の軽減

デジタル戦略

確かな“きずな”を、未来へ。 京葉銀行 BANK

デジタル化推進によりオムニチャネル戦略を進化

オムニチャネル戦略の進化

非対面

スマホ / PC

●非対面チャネルの機能強化

- 来店不要の対象取引を拡大
  - Ｗｅｂ諸届サービス
  - Ｗｅｂ完結ローン
  - 今年度Web投信口座開設開始
- オンラインでの年金・相続等の個別相談
  - オンライン相談サービス
- さらなる利便性向上に向けた取り組み
  - ＨＰのポータル充実
  - 法人ポータルの導入検討

融合

対面

窓口 / 渉外

●店頭改革

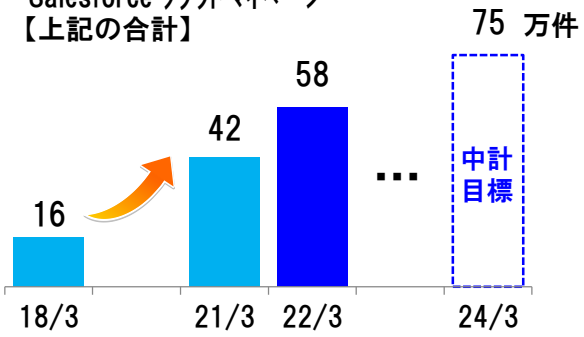
- デジタル活用による業務効率化
  - 来店予約サービス（今年度全店拡大）
  - 住宅ローン契約電子化（今年度導入予定）

●行内のデジタル活用促進

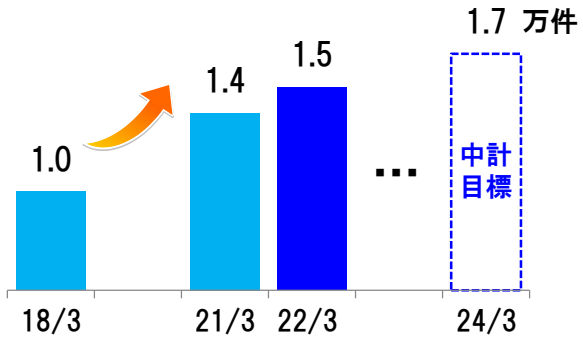
- スマートフォンの配布
- Ｗｅｂ会議ツールの活用

個人デジタル接点数

・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ
・どこでもｻｲﾝｲﾝ
・Salesforce ｸﾗｳﾄﾞﾏｲﾍﾟｰｼﾞ
・ｽﾏﾎｱﾌﾟﾘ
・LINEお友達登録
【上記の合計】



法人ＩＢ契約数



次世代勘定系ｼｽﾃﾑ 2023年度中稼働 ▶ ﾃﾞｰﾀ利活用・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ高度化 ▶ ＤＸを加速

店舗戦略・人員の戦略的再配置

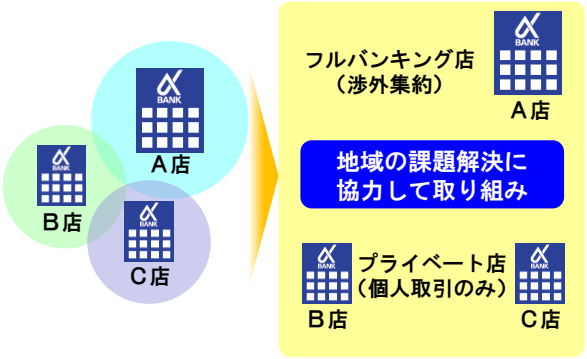
確かな"きずな"を、未来へ。 京葉銀行

効率的な営業と重点分野への再配置により、戦略・施策の取り組みを加速

エリア制の進化による顧客接点拡大

●エリア制の全店拡大

➢ 前中計で試行したエリア制を2021年度に全店に拡大



（店舗）

	20/3	22/3
ﾌﾙﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ店	95	45
ﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ店	17	65
うちｷｬｯｼｭﾚｽ店	－	6
事業性融資専門店	2	1
出張所	1	0
店舗内店舗	4	8

※ﾛｰﾝﾌﾟﾗｻﾞ、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ支店、外貨両替所除く

●コンサル特化に向けた業務効率化

➢ 本部集中化の促進

- コールセンターの導入　全店で導入済
- 住宅ローン審査本部集中　今年度本審査を全店展開予定

➢ 店舗特性の見直し

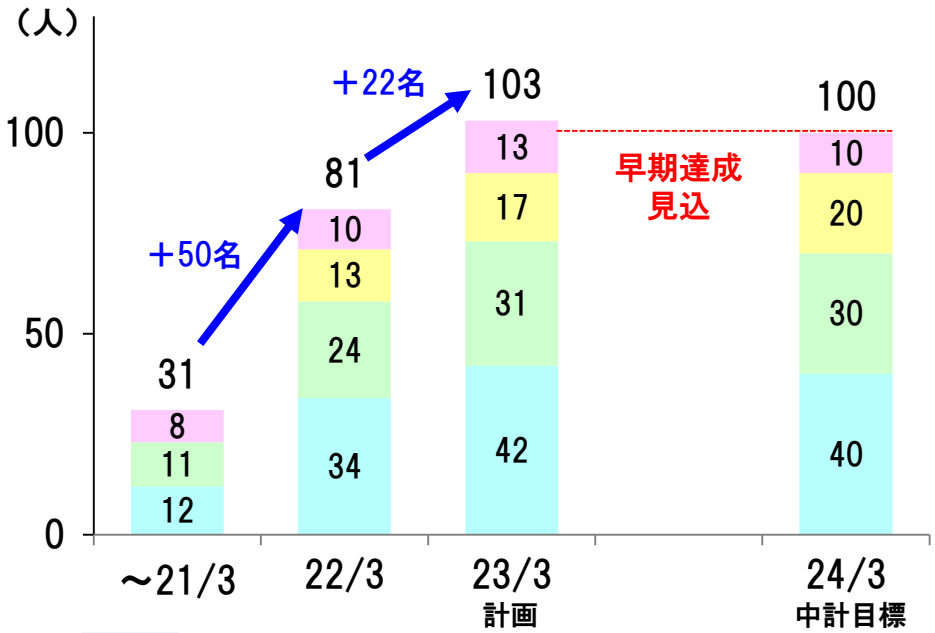
キャッシュレス店舗

・全窓口での現金取引をATMなどに集約することで、ｽﾋﾟｰﾃﾞｨかつｽﾑｰｽﾞなお手続きが可能
・じっくりと時間をかけてお客さまのｻﾎﾟｰﾄを行うことで、ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞを充実

人員の戦略的再配置

➢ 前中計にて取り組んだ業務効率化に加え、
店舗体制見直しにより捻出した人員を重点分野へ再配置

重点分野への人員再配置状況（累計）



重点分野
専門ｿﾘｭｰｼｮﾝ部署
市場部署など
企画・管理部署
デジタル分野
集中部署

人財戦略

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

地域とお客さまに高い付加価値を提供できる人財を育成

人財育成の体制整備

●多様な働き方の実現

- フレックスタイム制度
- 育児・介護休暇制度
- キャリアパスの構築

有給休暇取得率	
22/3	24/3目標
73%	80%以上

次世代法に基づき、高い水準で子育てｻﾎﾟｰﾄに取り組んでいる企業の認定

プラチナくるみん

厚生労働省による男性の育児と仕事の両立を促進し、業務改善を図る企業を表彰する制度

ｲｸﾒﾝ企業ｱﾜｰﾄﾞ2018
両立支援部門

専門人財の育成支援

●挑戦意欲の喚起

- キャリアチャレンジ制度
- 副業・兼業の解禁
- 資格取得制度の推奨

ＦＰ１級取得者	
22/3	24/3目標
127名	150名

● 専門スキルの取得

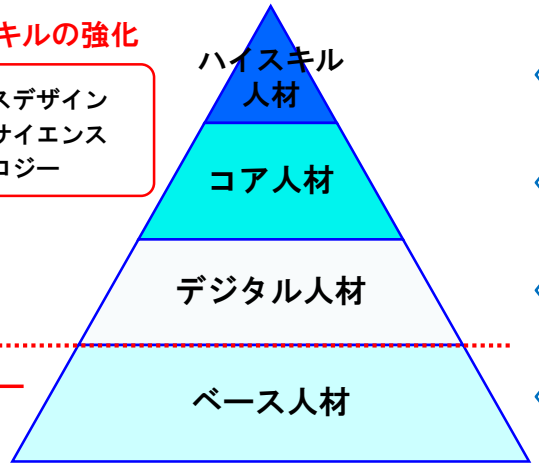
- エキスパート社員制度導入
- シニアスタッフ行員制度
- 外部専門機関への出向

外部機関派遣・受入	
22/3	24/3目標
19名	40名

●デジタル人材育成計画 ～2025年度

本部

３つのスキルの強化
①ビジネスデザイン
②データサイエンス
③テクノロジー



全行

リテラシー教育

１０人	高度な外部資格を有し、ＤＸ戦略を企画・推進していく人材
５０人	デジタル戦略を推進する人材
１４０人	ＩＴ・システム業務の知識・経験を業務に利活用出来る人材
１０００人 行員の50%	ＤＸの基礎的な知識を有する人材（ＩＴパスポートの取得）

行員の約10%

りそなＨＤとの戦略的業務提携

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

連携強化により地域の皆さまに最適なソリューションを提供

戦略的業務提携の概要（2021年8月提携開始）

提携効果イメージ

100億円
（5年累計、両行合計額）

●３つの分野で業務提携

ﾃﾞｼﾞﾀﾙ	➢ ﾊﾞﾝｷﾝｸﾞｱﾌﾟﾘ､ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ､ﾃﾞｰﾀ分析、ﾃﾞｰﾀﾋﾞｼﾞﾈｽ、業務効率化等
ｿﾘｭｰｼｮﾝ	➢ 相続・事業承継、M&A、ｼﾝｼﾞｹｰﾄﾛｰﾝ、ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ、不動産活用等
人財育成	➢ 本部人財交流、階層別研修や各種ｾﾐﾅｰ共催等

●主な取り組み

➢ ｿﾘｭｰｼｮﾝ分野を中心に提携施策をｽﾀｰﾄ

ﾃﾞｼﾞﾀﾙ	➢ ﾊﾞﾝｷﾝｸﾞｱﾌﾟﾘの開発・研究
ｿﾘｭｰｼｮﾝ	➢ 相互紹介によるｼﾝｼﾞｹｰﾄﾛｰﾝ組成連携 約半年で両行計13件の相互紹介 ➢ ﾋﾞｼﾞﾈｽ商談会の共催 ➢ りそなｸﾞﾙｰﾌﾟが運営するM&Aﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑへ参加 ➢ りそなﾗｯﾌﾟ型投信販売開始、ﾌｧﾝﾄﾞﾗｯﾌﾟ導入準備 ➢ 不動産ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ業務開始
人財育成	➢ りそな銀行不動産ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ関連部署へ1名出向

全国から納入希望業者128社が参加

ﾘﾓｰﾄで実施

サステナビリティ

サステナビリティへの取り組み①

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

地域のお客さまとともに持続可能な社会を実現

京葉銀行グループＳＤＧｓ宣言

京葉銀行グループは、国連が提唱するＳＤＧｓ
（持続可能な開発目標）の趣旨に賛同し、次に掲げる
重点項目に全役職員が主体的に取り組むことで、
地域の持続的成長の実現を目指してまいります。

確かな“きずな”を、未来へ。

地域経済・社会

お客さまや地域の課題解決を支援することで、地域経済の発展に貢献してまいります。

ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ＆ｲﾝｸﾙｰｼﾞｮﾝ

個人の多様性を尊重し、誰もが仕事や生活を充実させ、自分らしく活躍できる社会づくりに貢献してまいります。

環境保全

社会全体の環境負荷低減と環境保全に取り組み、低炭素・循環型社会の実現を目指してまいります。

サステナビリティへの取り組み②

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行 BANK

サステナビリティを巡る課題への体制整備を着実に実行

サステナビリティ経営体制の整備

2021年4月	2021年12月	2022年5月
京葉銀行グループ ＳＤＧｓ宣言	サステナビリティ方針策定・ ＴＣＦＤ賛同表明	サステナビリティ委員会設置

●京葉銀行グループサステナビリティ方針の策定

➢ サステナビリティに対する基本的な考え方を改めて整理

京葉銀行グループは、金融仲介機能の発揮とお客さま本位の良質なサービスの提供等を通じて、気候変動等の環境問題をはじめとするさまざまな社会的課題の解決に取り組み、地域経済の発展と当行グループの企業価値向上の好循環サイクルを創出し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

取組み方針
- 行動規範
- 環境方針
- 人権方針
- 投融資方針

重点項目
- ＳＤＧｓ宣言
  - 1.地域経済・社会
  - 2.ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ&ｲﾝｸﾙｰｼﾞｮﾝ
  - 3.環境保全

●サステナビリティ委員会の設置

➢ 頭取を委員長とする委員会を設立し、推進体制を強化

取締役会
↓
ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ委員会
↓
ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ検討部会
↓
本部・営業店・関係会社

・ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ向上に資する取組みの進捗を一元管理するとともに、取締役会の監督を受ける体制へ

・併せて下部組織として「ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ検討部会」を設置し、ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨを巡る課題への具体的な対応について組織横断的に検討する体制へ

サステナビリティへの取り組み③

確かな“きずな”を、未来へ。 京葉銀行 BANK

ファイナンスを中心としたソリューションを通じて地域のサステナビリティに貢献

ＥＳＧ関連投融資の目標・実績

	22/3 実績	24/3 中計目標	31/3 長期目標
ＥＳＧ関連投融資（※） 21/4からの累積実行額	614億円	1,500億円	7,000億円

（※）環境･再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ分野向け、医療･介護分野向け投融資等、ESGに資する投融資

お客さまのＳＤＧｓ取り組みサポート

➢ お客さまの規模や取り組みﾌｪｰｽﾞに適合するｿﾘｭｰｼｮﾝを提供

大・中堅企業

中小企業

ソリューションメニュー	
➢ αｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ･ﾘﾝｸ･ﾛｰﾝ ➢ αｸﾞﾘｰﾝﾛｰﾝ	・国際原則に準拠したﾌｧｲﾅﾝｽ ・第三者評価機関によるﾚﾋﾞｭｰが必須
➢ ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ	・CO2排出量簡易算定（検討中） ・お客さま同士を繋ぐｼﾅｼﾞｰ効果
➢ SDGs取組支援ｻｰﾋﾞｽ ➢ SDGsﾛｰﾝ	・SDGs取組評価･宣言支援ﾂｰﾙの活用 ・SDGsを推進する企業の資金ｻﾎﾟｰﾄ

●ＳＤＧｓ取組支援サービス

➢ 中小企業のお客さま向けにSDGs取組評価･宣言支援ﾂｰﾙを活用

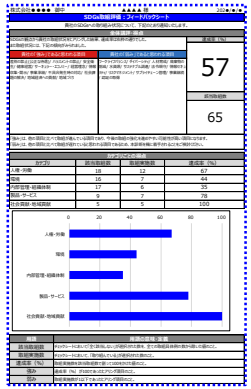
京葉銀行 → ①SDGs取組評価・宣言支援ﾂｰﾙの提供 → お客さま

STEP1: ②SDGs評価の実施

STEP2: ③SDGsｿﾘｭｰｼｮﾝの提供
- SDGs宣言書
- ちばSDGsﾊﾟｰﾄﾅｰ登録制度
- ｻｽﾃﾅﾌﾞﾙﾌｧｲﾅﾝｽ
- 業務提携先連携

SDGs宣言書 ｲﾒｰｼﾞ図

ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸｼｰﾄ ｲﾒｰｼﾞ図



●千葉県と連携したＳＤＧｓの推進

➢ 2022年1月、当行を含む千葉県同友会12団体・企業で成る「ちばSDGs推進ネットワーク」に参加

千葉県 ↕ 連携 京葉銀行（他10団体・企業）

ちばSDGsﾊﾟｰﾄﾅｰ登録制度 → 県内のお客さま

ﾈｯﾄﾜｰｸを最大限活用し、SDGsの普及啓蒙活動・伴走支援 → 県内のお客さま

地域経済・社会

確かな"きずな"を、未来へ。
京葉銀行

地域経済の持続的な成長や、地域社会の活性化に貢献

新型コロナウイルスへの融資対応

➢ 約14,000件の新規融資、条件変更のご相談受付

※2022年4月30日時点

	事業性融資		住宅ローン
相談件数　13,998件	13,416件		582件
新規融資相談	12,548件		
融資実行	11,273件	2,791億円	
条件変更相談	868件		582件

資本性劣後ローン実行	12件

※2022年3月31日時点、
日本政策金融公庫への紹介案件含む

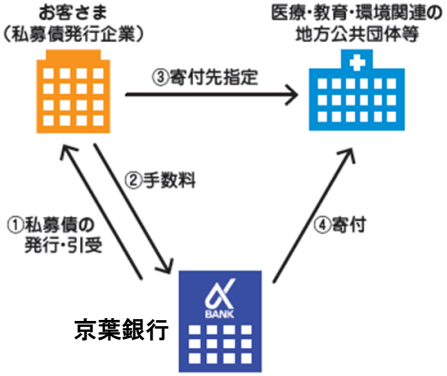
ＳＤＧｓ私募債

➢ 発行企業さまからいただいた手数料の一部を、医療・教育・環境関連の法人や千葉県などの地方公共団体等に寄付

発行実績　181件 131億円

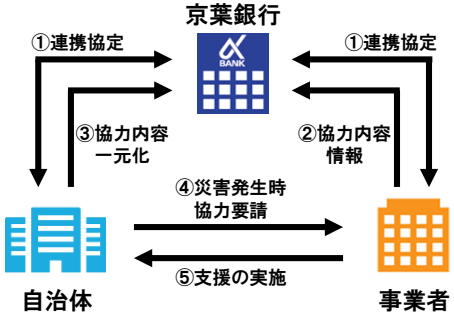
寄付総額　2,628万円

※2022/3末時点



被災地応援プラットフォームの導入

➢ 2021年9月、当行が自治体、お取引先事業者さまとそれぞれ連携協定を締結し、自治体のセーフティネット機能強化を支援



●参加事業者

自治体	・四街道市、香取市
事業者	・株式会社テックコーポレーション ・株式会社ウィード ・株式会社佐藤ケミカル ・株式会社やます ・株式会社鶴商メンテナンス工業 ・株式会社アーネスト

香取市佐原における町おこし

➢ 「北総の小江戸」と呼ばれる佐原地区の町並みを歴史的な観光資源として活かした地域振興の取り組み（佐原信用金庫共同PJ）

2015.9　「千葉・江戸優り佐原観光活性化ﾌｧﾝﾄﾞ」出資（2016.10事業会社設立）

2018.3　古民家を改装した「佐原商家町ホテルNIPPONIA」オープン

2021.3　酒蔵を改装したバンケットルームオープン

2022.3　事業会社へのファンド出資を直接出資へ切替

バンケットルーム
「KAGURA棟」

株式会社馬場本店酒蔵が江戸時代末期より保有する酒蔵を改装

ダイバーシティ＆インクルージョン

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

自分らしく生活できる社会づくりに貢献

女性活躍推進

- 女性の活躍を人財戦略の重要なテーマと位置づけ、マネジメントを担う人財の育成・登用を推進

女性活躍の状況	21/3	22/3	24/3目標
指導的地位(※)にある女性人数	324人	369人	–
指導的地位(※)に占める女性比率	25.8%	28.3%	30%

※係長以上の役付行員（基準日：年度末日の翌営業日）

女性活躍推進法に基づき、女性活躍に関する取り組みが優良な企業の認定

えるぼし

行内コミュニケーションの活性化

- 従業員一人ひとりが個性や創造性を活かしながら、その能力を最大限発揮できるよう、働きやすい職場づくりを推進

頭取・若手行員Web座談会

Thanksカードの活用

□Thanks ★Good job □Excellent

To ○○さん

人数が少ない中で、「これ教えて下さい！これ私が覚えた方が楽になりますよね！」と新しいことにたくさんチャレンジしてくれてありがとう！すごく助かっているし、その姿勢に私も頑張ろう！と良い刺激を受けています。次は○○さんが先輩になった時に同じ様に思ってもらえるように、新しいことたくさん覚えていこうね！！

健康経営への取り組み

- 2021年4月、「健康経営宣言」を制定
- 従業員の健康管理を経営課題として取り組むことにより目指す銀行像を実現

経済産業省と日本健康会議が協同で選定する「健康経営優良法人2022」に選定されました

2022 健康経営優良法人 Health and productivity

農福連携

- 2021年5月「農福連携(※)」の推進に向けた４社連携協定を締結

（※）障がい者などが農業分野で活躍し、自信や生きがいを持って社会参画することを支援とともに、農業の担い手不足の解消を図る取り組み

環境保全

確かな“きずな”を、未来へ。 京葉銀行

脱炭素・循環型社会の実現に貢献

気候変動リスクへの取り組み

- 2021年12月、TCFD（※）提言への賛同を表明
- 気候関連財務情報開示と脱炭素社会の実現に向けた取り組みを強化

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

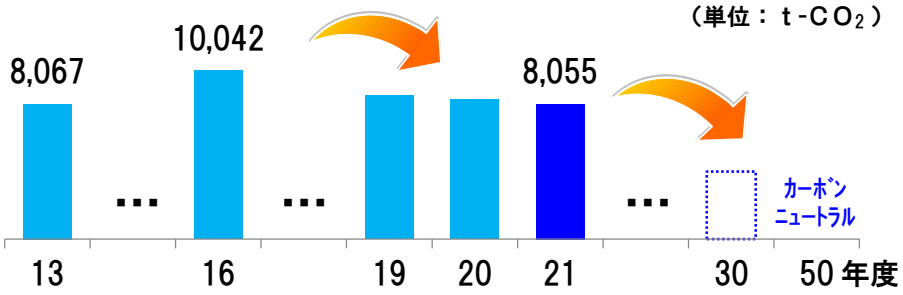
（※）気候関連財務情報開示ﾀｽｸﾌｫｰｽ

●CO_2排出量の削減目標

2030年度に2013年比50%削減
2050年度にｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙを目指す

CO_2排出量の推移

（単位：t-CO_2）



（単位：t-CO_2）

	2019年度	2020年度	2021年度
SCOPE1	1,264	1,200	1,307
SCOPE2	7,307	7,114	6,748
SCOPE3（※）	-	-	-
合計	8,571	8,314	8,055

（※）SCOPE3については今後算出を検討

千葉みなと本部の再生可能エネルギーへの移行

- 千葉みなと本部では、使用電力の全量を再生可能エネルギーへ移行済
- 既に屋上庭園化や壁面緑化、太陽光発電の設置などさまざまな環境負荷低減技術を使用しており、一般社団法人建築環境・省ｴﾈﾙｷﾞｰ機構の建築環境総合性能評価ｼｽﾃﾑCASBEE（ｷｬｽﾋﾞｰ）（※）において最上級のSﾗﾝｸを取得

（※）一般財団法人建築環境・省ｴﾈﾙｷﾞｰ機構(IBEC)による建築物を環境性能で評価し格付けする手法。省ｴﾈﾙｷﾞｰや環境負荷の少ない資材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や環境への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するｼｽﾃﾑ。

千葉大学×京葉銀行ｅｃｏプロジェクト

- 2017年より産学連携のプロジェクトをスタート
- SDGs達成に向けて学生発案の環境啓発活動や環境貢献企画を実践

地産地消を促進する
リーフレットを全営業店で配布 ▶

◀ 竹害を抑制する竹林整備
体験事業を実施

（参考）株主・投資家の皆さまへの情報発信

京葉銀行ホームページ

【ＩＲライブラリー】

ＩＲ資料などが
ご覧いただけます

京葉銀行のコミュニケーションシンボル

「α」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、
人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。
コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、
“人とのきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”
“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

確かな“きずな”を、未来へ。

＜本資料に関する照会先＞

株式会社　京葉銀行　経営企画部

ＴＥＬ：０４３－３０６－８０６１

・本資料には将来の業績に関わる記述が含まれていますが、こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。

・また、本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券を推奨するものではありません。